



共同購入委員会主催

生産者出合いの旅

肉厚わかめの重茂漁協

活動報告

2023年10月28日(土)～29日(日)



カラー版はこちらから！写真も大きく見られます。

予約番号
A週 800644
C週 800646

きっかけは、東日本大震災の時の津波の写真でした。その青々とした波の色は、今まで見た津波の写真とは違っていました。45年間重茂漁協で取り組んできた「合成洗剤追放運動」によりヘドロが堆積していなかったため、と聞きました。同じ石けん運動を行っているものとして、「あの歯ごたえ抜群の肉厚わかめが育つ美しい重茂の海を見に行きたい！」ということで、生産者出合いの旅での重茂訪問が決まりました。



重茂はここ！

拡大するとこのあたり！

岩手県宮古市本州最東端の緑豊かな重茂半島。海岸線はリアス式海岸の複雑な地形が続き、親潮と黒潮(暖流と寒流)が交わる沖合は魚の種類が豊富で世界3大漁場のひとつ。半島の中心部は山々がそびえ、手付かずの深い森(遺伝子保存林：永久に伐採しない協定を国と結んでいる)から流れ出る幾筋もの川がミネラルを豊富に含んだ水を海に供給し、良質の海藻や魚介類が生育できる環境を作っています。

天恵戒驕

～天の恵みに感謝(驕る(おごる)気持ちを戒め不慮に備えよ～

『重茂は天然資源豊かで今は何の不自由もないが、天然資源は有限であり、無計画に採取していると近い将来枯渇することは間違いない。天然資源の採取は控えめに、不足するところは自らの研鑽により新たな資源を産み補う。これが自然との共存共栄を可能とする最良の手段である。』戦後の復興期に重茂漁業協同組合の初代組合長が遺した言葉だそうです。豊かさを享受するだけでなく、自然との共存共栄を生活の根幹として、養殖事業や海を守る活動を行ってきました。その重茂スピリットは大切に受け継がれています。環境保護の活動にも力を入れ、未来につなぐ美しい海計画を進めています。今だけでなく次世代のために様々な環境を守る活動として、漁港や海岸の清掃活動、広葉樹の植林活動、合成洗剤追放活動を行っています。たゆまぬ努力のたまものである豊かで美しい海で、今日もさまざまな魚介類や海藻が育まれており、私たちはその恩恵を受けています。

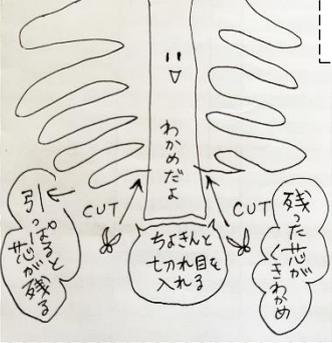


重茂漁業協同組合
初代組合長西館善翁
漁協は高台にある。これも初代組合長の言葉を守っており津波を免れた

ミネラル豊富なもっちり食感の肉厚わかめを食べよう！予約利用がおすすめですぞ！

肉厚わかめの芯取り体験

漁協の木村篤人さんがコツを伝授！
うまいくと、長〜く芯が取れて気持ちいい！
芯を取ったわかめは包材に入れてシーラーで密封すると、おなじみの消費材の「肉厚わかめ」のできあがり！残った芯は「茎わかめ」になります。



長〜いわかめを箱から出して芯の両脇に切り込みを入れ割きます。箱に塩漬けされたわかめがぎっすり入っています。



岩手日報の取材を受け、新聞に掲載されました
2023.10.31 掲載

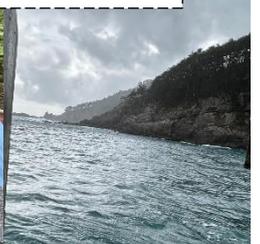
不安定な天候で海は大時化(しけ)！船が出せなかったため、わかめ養殖場見学は断念しました。わかめは 3~4 月が最盛期で連日大忙し！収穫されたわかめは 90℃で 3 分茹でられすぐに冷却し 2 日間塩でつけられます。冷やし方が甘いと赤く変色してしまうので、冷やしが肝心です。1 日 20t 加工する時もあります。加工され箱にぎっすり詰まったわかめをほぐしながら芯を取っていきます。わかめの真ん中に 2cm くらいの太い芯があるので芯の両脇に切れ目を入れて割くと「肉厚わかめ」、残った芯は「茎わかめ」になり、どちらも消費材になります。これは出来高制になっているので、1 日に何箱できるか？！で給料が変わってくるため、みなさん夢中で作業するそうです！

見学と学習

センターではわかめの種も育てている。写真はわかめの赤ちゃん



東日本大震災の津波到達地点の碑。山の中腹。このすぐ上に「ここより下に家を立てるな(大津波記念碑)」があった。改めて津波の大きさ、恐ろしさを感じました。



あわびの種苗センター。震災で全て流れさらされた。すぐ横に川が流れており秋になると何万匹もの鮭の遡上が見られるはずが、今年はまだ 6 匹(見学当時)。大きく海流が変わり、気候変動の影響で漁業は大変なダメージを受けています。

悪天候で海は大時化
大時化の海は鈍色と
思っていたが、重茂の海は嵐でもきれいな重茂ブルー



体験交流館「えんやあどっ」と名物の天然わかめラーメン！肉厚わかめよりさらに肉厚な歯ごたえバツグンのわかめとめかぶがどっさり！重茂に行ったらぜひ食べるべし！わかめソフトもおいしいよ♪



私たち組合員が贈った義援金で買った船が 2 艘係留しており、船室の壁には「贈生活クラブ生協」と書かれていました。見られてうれしい！



合成洗剤追放の看板。重茂漁港への入り口付近と漁港に立っています。長年地域で石けん運動に取組み、思いもよらないことでしたが、ヘドロが堆積していなかったため、震災の時の津波が真っ青だったということです。



生産者出会いの旅を終えて

ここで養殖されたわかめを私たちは共同購入しています。案内をして下さった漁協の後川良二さんの「重茂の海を守り、重茂ブランドの維持に努めて、消費者が安心して安全な食品を供給することを目指しています」という言葉を直に聞き、未永くつながっていきたい産地の一つであると実感しました。組合長の山崎義広さんとの面談では、重茂地域の人々の持つ海を守る使命が本物であると感じました。また、重茂地域の漁業の歴史を聞き、先進的な養殖業を遂げてきた地域ということも知りました。折にふれて、組合員一人一人にこの情報を伝えたいと思います。(米澤克恵 まちあだち消費委員長)

重茂のみなさまありがとうございました！
またいつか再訪できることを願っています

